1

令和６年度

大阪府学力検査問題

（一般入学者選抜）

国　語

〔Ａ問題〕

注　意

1　「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

2　答えは、**解答用紙**に書きなさい。
ただし、問題**五**は**原稿用紙**に書きなさい。

・答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて**解答用紙の記号**を○で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消しなさい。

・答えの字数が指定されている問題は、**句読点や「 」などの符号**も一字に数えなさい。

【解答例】

ア
イ
㋒
エ

解答用紙の**採点者記入欄**には、何も書いてはいけません。

3　問題は、中の用紙のＡ面に**一**～**三**、Ｂ面に**四**・**五**があります。

4　「開始」の合図で、まず、解答用紙と原稿用紙に受験番号を書きなさい。

5　「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。

A 面

国語 〔A問題〕（一般入学者選抜）

一 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)〜(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)〜(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

(1) 長い航海を終えた。
(2) 挨拶をする。
(3) 新しい試み。
(4) 本を大切に扱う。
(5) ユミで矢を射る。
(6) オモい荷物を持つ。
(7) 調理師のシカクを取得する。
(8) ハイケイに森を描く。

2 次の文中の傍線を付けたことばが「我を忘れて、ある物事に熱中して」という意味になるように、□にあてはまる漢字一字を、あとのア〜ウから一つ選び、記号を○で囲みなさい。

友人から借りた本が面白く、私は無我□中で読んでしまった。

ア 無　イ 霧　ウ 夢

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アサガオのタネをそのままくと、発芽するまでに、長い日数がかかります。その理由は、アサガオのタネが、硬く厚い皮に包まれているためです。そこで、「タネが硬く厚い皮に覆われていることは、アサガオにとって、どんな利点があるのか」という〝ふしぎ〟が浮かびあがります。

①タネの大切な役割の一つは、暑さや寒さなどの都合の悪い環境を耐えしのぐことです。硬く厚い皮は、暑さや寒さをしのぐのに役立ちます。そればかりでなく、ひどい乾燥を耐え抜くのに役立ちます。

タネの大切な役割は、都合の悪い環境を耐えしのぐことだけではなく、自分では動きまわることのない植物たちが生育する場(A)所を変えたり、生育地を広げたりすることです。そのために、動物に食べられても、胃や腸の中で消化されずに、糞といっしょに排泄されなければなりません。硬く厚い皮は、消化されにくいので、この点でも役に立ちます。

新しい生育の場を得たあとも、②皮が硬く厚いことは、タネが発芽する「場所」を選ぶために大切です。硬く厚い皮をもつタネが発芽するためには、硬く厚い皮をやわらかくするために多くの水がなければなりません。

それほど十分な量の水が存在する「場所」では、発芽したあとに根を張りめぐらせるまで、十分な水があることになります。硬い皮をもつタネは、十分な水があることを確認して、発芽できるのです。

また、硬くて厚い種皮は、土壌に多くの微生物がいると分解されます。すると、水や空気がタネの中に入るので、発芽の準備がはじまります。まわりに多くの微生物がいるということは、水分があり、肥沃な土壌であることを意味します。ですから、発芽後の芽生えの成長に都合がいい場所なのです。

そのため、硬い種皮をもつタネは、同じ年に同じ株にできたタネであっても、そのあとに、どんな場所に移動するかによって、発芽する時期が異なってきます。それぞれのタネが発芽にふさわしい「場所」を得て、いろいろな場所で、何年にもわたってバラバラと発芽がおこります。

同じ年に同じ株にできたタネのすべてがいっせいに発芽してしまうと、その後にすべてが枯れるような乾燥や寒さや暑さが突然に訪れ、全滅する危険性があります。また、人間に刈られたり枯らされたりすることもあります。動物に食べられてしまうこともあります。そのため、いろいろな場所で、何年にもわたりバラバラと発芽することは、全滅する危険を避けるのに役立ちます。

アサガオのタネが硬く厚い皮をもつことは、このように、③次の世代へ命をつないでいくための工夫の一つなのです。

（田中修『植物はすごい　七不思議篇』による）

1 (A)場 とあるが、次のア〜ウの傍線を付けたカタカナを漢字になおしたとき、「場」と部首が同じになるものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 果物の栽バイ。　イ 問題をテイ起する。　ウ カイ中電灯で照らす。

2 ①タネの大切な役割 とあるが、本文中で筆者は、どのようなことがタネの大切な役割であると述べているか。その内容についてまとめた次の文の a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から十三字で抜き出し、初めの六字を書きなさい。また、b に入る内容を、本文中のことばを使って九字以上、十三字以内で書きなさい。

暑さや寒さなどの a ことや、生育の場を b こと。

3 ②皮が硬く厚いことは、タネが発芽する「場所」を選ぶために大切です とあるが、本文中で筆者は、硬く厚い皮をもつタネはどのような場所を選んで発芽すると述べているか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 種皮をやわらかくしてしまうほどの水が存在せず、まわりに多くの微生物がいる場所。

イ 発芽したあとに根を張りめぐらせるまで十分な量の水が存在し、まわりに多くの微生物がいる場所。

ウ 種皮を分解する微生物がおらず、発芽したあとに根を張りめぐらせるまで十分な量の水が存在する場所。

4 ③次の世代へ命をつないでいくための工夫 とあるが、アサガオの、次の世代へ命をつないでいくための工夫について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。a 、b に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、a は十一字、b は六字で抜き出すこと。

タネが硬く厚い皮をもつことで、a タネであっても、いろいろな場所で、何年にもわたってバラバラと発芽がおこるので、b を避けることができる。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

惣じて物を買ふなら、その時ときに至つては①高直な物じやによつて、焼炭は夏②買へばやすし、晒などは冬かへば大ぶん下直な。万事に気をつけて、春入るものは秋かへはやすし。冬いるものは夏かへば、何によらずやすい。③いやいやさふいやるな。此の中蠟燭を昼買ひにやつたけれど、夜買ふと同じねじやあつた。

（注）晒＝吸水性や通気性に富む綿や麻の布。　蠟燭＝ろうそく。

1 ①高直な物 とあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 質の高い物　イ 値段の高い物　ウ 手に入りにくい物

2 ②買へば を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

3 ③いやいやさふいやるな とあるが、本文において、このことばがどのようなことを表しているかということについて、次のようにまとめた。a 、b に入れるのに最も適していることばをそれぞれあとから一つずつ選び、記号を○で囲みなさい。

a 何であっても安いというが、b ので、そうとはいえないということ。

a

ア 事前に何を買うかを計画して買うと

イ その物が必要となるときをはずして買うと

ウ どのようなときにも売られている物を買うと

b

ア 蠟燭を昼に買いに行ったが夜に買うのと同じ値段であった

イ 蠟燭を昼に買いに行ったが夜に買う方が値段が安かった

ウ 蠟燭を昼に買いに行ったが夜に買う方が値段が高かった

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「時間」とは何でしょうか。このように問われたとしたら、皆さんはどうするでしょうか。腕を組み、あるいは顎に手を当てて、頭の中で「時間とは何か」とくりかえし唱えたところで先には進まない①でしょう。このように「〇〇とは何か」という問いはあまりに抽象的で漠然とした大きな問いなので、この問いにいきなり向き合ってもすぐに回答することはおろか、回答の糸口さえつかめないものです。

②このようなときには、問いをより具体的な小さな問いへ置き換えて考えてみると役に立つことがあります。ここで言う「小さな問い」とは、元々の「〇〇とは何か」という大きな問いに対して完全な回答を示すことを目指したものではないのですが、当のものごとがどのようなものごとであるかについて、ある具体的な切り口から迫っていくことによって、「当のものごとは少なくともこういうものである、あるいはこういうものではないということは言える」という回答を示すことによって、当のものごとの本質を部分的に明らかにすることを目指すような問いです。このような回答の糸口をつかむことによって、完全な回答へと徐々に迫っていけるのではないかと期待されます。それゆえこれは、哲学的な問いについて考えるための有効な方法の一つだと考えられます。つまり、「〇〇とは何か」という問いに対する思考が漠然としてしまうのは、元々の問いが漠然としているからであって、より具体的な問いから始めることによって初めて、思考を一歩一歩着実に展開させていくことができるということです。

と言いながら、以上の説明はそれ自体とても抽象的なものでしたので、具体的に「時間」についてはどのような小さな問いを設定できるのかを見ていきましょう。考える一つの手掛かりは、時間がしばしば空間内の直線で表現されるということです。理科や物理の教科書などにはよく、時間軸が横軸の直線で表されているようなグラフが出てきますね。直線というものは文字どおりには空間内に位置づけられるものですから、それ自体は時間ではありません。時間を直線で表すというのはある種の比喩だと理解するべきでしょう。③、このように時間を直線で喩えるということは、時間が空間内の直線と同じような性質をもつ空間の類似物だということを意味するのでしょうか。私たちは、直線の比喩をどこまで文字どおりに理解してよいのでしょうか。

以上のような問いがまさに、時間に関する小さな問いの一例です。④時間が空間に類するものであるかどうか、この問いに答えるだけでは、時間の本質が何であるのかを完全に示したことにはならないでしょう。しかし、少なくともこの問いに答えることによって、時間というものが空間に類するようなものなのかそうでないのかという点で、時間の本質を部分的に明らかにすることはできます。もちろんこの小さな問いは、それ自体でも十分に抽象的な問いだと言えるかもしれません。しかし、「時間」という主題に「空間」という対比物をあてがうことによって問いを具体化し、私たちに考える糸口を与えてくれていると言うことはできるでしょう。［　⑤　］とは、たとえばこのようなことを指しているのです。

（金杉武司『哲学するってどんなこと？』による）

1　本文中の①ないと品詞が同じ「ない」を含む一文を次から一つ選び、記号を〇で囲みなさい。

ア　雲一つない空。
イ　二度とない機会だ。
ウ　電車がなかなか来ない。
エ　読書に飽きることはない。

2 ②このようなとき とあるが、本文において、これはどのようなときのことか。その内容についてまとめた次の文の [a]、[b] に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、[a] は**十四字**、[b] は**十二字**で抜き出し、それぞれ**初めの六字**を書きなさい。

「〇〇とは何か」というような、[a] に対して、すぐに回答するどころか [b] とき。

3 次のうち、本文中の [③] に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を〇で囲みなさい。

ア または　イ なぜなら　ウ だから　エ しかし

4 ④時間が空間に類するものであるかどうか とあるが、この問いについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。[　] に入る内容を、本文中のことばを使って**二十字以上、三十字以内**で書きなさい。

時間が空間に類するものであるかどうか、という問いに答えるだけでは、時間の本質が何であるのかを [　] ことはできる。

5 次のうち、本文中の [⑤] に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を〇で囲みなさい。

ア 小さな問いから大きな問いを生み出す
イ 大きな問いを小さな問いに置き換える
ウ 時間を空間内の直線に喩える
エ 時間に空間という対比物をあてがって具体化する

五 新しいことに挑戦するときに、あなたが大切にしたいと考えることはどのようなことですか。次の**条件1・2**にしたがって、あなたの考えを別の原稿用紙に書きなさい。

条件1 新しいことに挑戦するときに、あなたが大切にしたいと考えることを簡潔に述べたうえで、なぜそのように考えたのかを、具体例や自分の体験を挙げながら説明すること。

条件2 **百八十字以内**で書くこと。

受験番号	番

得点	

〈問題五を除く〉

○

一

	1							
2	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
ア イ ウ	背景（ハイケイ）	資格（シカク）	重い（オモい）	弓（ユミ）	あつかう（扱う）	こころみる（試み）	あいさつ（挨拶）	こうかい（航海）

/18	/2	/2	/2	/2	/2	/2	/2	/2	配点
		採点に当たっては、「常用漢字表（付）字体についての解説」および「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」をふまえ、採点基準を定めること。裏面に、「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」の「字形比較表」の一部を示している。							注意事項

二

4		3	2				1
b	a		b			a	
全滅する危険	株にできた	同じ年に同じ	する	り、広げたり	生育の場を変えた	都合の悪い環	
		ア イ ウ	13 こと。	9			ア イ ウ

/23	/4	/4	/4	/4	/4	/4	/3	配点
				部分点を与える。				注意事項

三

3		2	1
b	a		
ア イ ウ	ア イ ウ	かえば	ア イ ウ

/12	/3	/3	/3	/3	配点
					注意事項

四

5	4						3	2		1
								b	a	
ア イ ウ エ	30 ことはできる。	らかにする	が、部分的に	とにはならない	完全に示したこ	時間の本質が何であるのかを	ア イ ウ エ	回答の糸口さ	抽象的で漠然	ア イ ウ エ
			20 明							

/25	/4	/6	/4	/4	/4	/3	配点
		部分点を与える。					注意事項

1

令和６年度

大阪府学力検査問題
（一般入学者選抜）

国　語
〔B問題〕

注　意

1　「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

2　答えは、**解答用紙**に書きなさい。
ただし、問題五は**原稿用紙**に書きなさい。

・答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて**解答用紙の記号**を〇で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの〇をきれいに消しなさい。

・答えの字数が指定されている問題は、**句読点や「　」などの符号**も一字に数えなさい。

【解答例】
ア
イ
〇ウ
エ

解答用紙の**採点者記入欄**には、何も書いてはいけません。

3　問題は、中の用紙のＡ面に一～三、Ｂ面に四・五があります。

4　「開始」の合図で、まず、解答用紙と原稿用紙に受験番号を書きなさい。

5　「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。

国語 〔B問題〕（一般入学者選抜）

一　次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、**大きくていねいに**書くこと。

(1) しおりが挟まったままの本。
(2) ついたてで部屋を隔てる。
(3) 悠久の歴史を感じる。
(4) 厳粛な雰囲気。
(5) チームのハシラとなる存在。
(6) 動物がつくったスアナ。
(7) この荷物はアンガイ軽かった。
(8) ヤハンに目を覚ます。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

独創性、オリジナリティとは何だろうか。「人跡未踏」という言葉がある。誰もまだ踏み得ていない場所のことである。①到達の困難な地に足跡を残すことは功績であり栄誉でもある。未踏の地は冒険家たちによって次々に踏破されてきたが、中国雲南省の梅里雪山とか、南極の分厚い氷の下に眠るボストーク湖など、未踏の地はまだある。月面はアポロ11号のアームストロング船長によって踏まれた。火星にはまだ人は到達していないが、往復に何年もかけてそれを踏みに行くには哲学的な決断が必要であろう。しかし人類は踏んだことのない場所を踏みたがる。誰にでも分かりやすい明白なる達成がそこに刻印されるからだろう。創造や創発という行為が携えているイメージは、この未踏の地を踏むような手応えなのかもしれない。

しかし一方、昔の人が踏んだ足跡の上をことさら踏み重ねるようにして行う創造行為もある。和歌における「本歌取り」がそれである。これは先人が詠んだ古い歌を下敷きにし、一句から二句程度、古歌の言葉をそのまま使って歌を詠む方法をいう。［　②　］ならこれは創造性がないということになるが、本歌取りは、先人の作を、それを享受する人々が皆知っていることを前提とする創作である。和歌を詠む素養には、言葉を生み出す技術のみならず、過去に詠まれた歌に対する知識も含まれている。したがって先人の歌やそこに描かれた主題を、歌を詠む側も味わう側も共通知識として持っていることを前提に、新たな歌がそこに重ねられるのである。ここには普遍と個の問題が横たわっている。時代を経て人々の意識の中に残ってきたものに、自分という個を重ね合わせていくことで見えてくる差異の中に、創造性を見出そうという着想がそこにある。

別の例で言えば、轆轤を回して茶碗を作る情景を想像してほしい。回転体であるから自ずと相似反復が生まれてくる。むしろ相似反復の中に茶碗が見出されると言ってもいいかもしれない。先人の営みをそのまま踏襲し、そこに生じる相似と差異の中に創造性が見立てられていく。多くの人々が認める普遍的な美がそこに見出されていく。個の創造性を超えた価値を探り当てようという意識、あるいは自我の表出に溺れず清まろうとする意志がそこに働いている。

誤解を恐れずに言うなら、③日本文化の中に育まれてきた創造性は人跡未踏にのみ価値を置いてはいない。自身の創作意欲を十全に発露しながらも、むしろさっぱりと個を始末し、普遍に手を伸ばそうとする姿勢である。同じ場所を同じように踏んでも足跡が完全に一致することはなく、必ず踏み方に違いが出る。だから先達の足跡に敬意を表しつつ、躊躇なく自分の足跡をそこに重ねられるのである。

（原研哉『白百』による）

（注）梅里雪山＝中国雲南省にある連山のこと。
轆轤＝陶器などを成形するときに用いる回転台。

1　次のうち、①到達と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　修繕　　イ　避暑　　ウ　送迎　　エ　密封

2　次のうち、本文中の［　②　］に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　古歌を重んずる　　イ　古歌を軽んずる
ウ　独創を是とする　　エ　独創を非とする

3 次のうち、本歌取りや轆轤を回して茶碗を作ることについて、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 本歌取りという方法があるように、和歌を詠むには、言葉を生み出す技術よりもむしろ、過去に詠まれた歌に対する知識の方が必要となる。

イ 本歌取りにおける創造性は、時代を経て人々の意識に残ってきたものに、個を重ね合わせていくことで見えてくる差異の中から見出される。

ウ 轆轤を回して茶碗を作る行為における創造性は、自ずと生まれてきた相似反復からではなく、その中に生じた差異から見立てられていく。

エ 轆轤を回して茶碗を作る行為には、先人の営みを踏襲しながらも、普遍的な美を超えた個の創造性を見立てようという意識が働いている。

4 ③日本文化の中に育まれてきた創造性 とあるが、日本文化の中に育まれてきた創造性について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。[a] に入る内容を、本文中のことばを使って**十字以上、十五字以内**で書きなさい。また、[b] に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から**二十五字**で抜き出し、**初めの五字**を書きなさい。

創造や創発という行為が携えているのは、未踏の地を踏む手応えのような [a] というイメージかもしれないが、日本文化の中に育まれてきた創造性は、先達の足跡に自分の足跡を重ねることで、創作意欲を発露しながらも、[b] である。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

或芸者、藤十郎に①問ひて曰く、我も人も、初日にはせりふなま覚えなるゆゑか、うろたゆる也。[ア] こなたは十日廿日も、仕なれたる狂言なさるるやうなり。[イ] いか成る御心入りありてや承りたし。[ウ] 我も初日は同、うろたゆる也。[エ] しかれども、よそめに仕なれたる狂言をするやうに見ゆるは、けいこの時、せりふをよく覚え、初日には、ねからわすれて、舞台にて相手のせりふを聞き、其の時おもひ出だしてせりふを云ふなり。其の故は、常づね人と寄り合ひ、或は喧嘩口論するに、②かねてせりふにたくみなし。相手のいふ詞を聞き、此方初めて返答心にうかむ。狂言は常を手本とおもふ故、けいこにはよく覚え、初日には忘れて出でるとなり。

(注) 芸者 = ここでは、能や狂言などを演じる役者のこと。
藤十郎 = 元禄期を代表する役者。

1 ①問ひて曰く を現代かなづかいになおして、**すべてひらがな**で書きなさい。

2 本文中には「答へて曰く、」ということばが入る。入る場所として最も適しているものを本文中の [ア] ～ [エ] から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

3 ②かねてせりふにたくみなし とあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 言い方を工夫しなければきちんと伝わらない
イ 前もって言うことを考えるということはない
ウ 口に出す前に慎重に考えなければならない
エ あれこれ言おうとするのはみっともない

4 狂言のけいこや舞台の初日に、藤十郎が心がけていることについて、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。[a] に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から**二字**で抜き出しなさい。また、[b] に入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで**二十字以上、三十字以内**で書きなさい。

狂言は、日常を [a] と考えるため、けいこの時にせりふをよく覚え、初日にはもとから忘れ、舞台において [b] ようにしている。

四　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

季語は歳時記に収録されています。現代の歳時記には五千語を超える季語が収録され、本意本情が解説されています。互いに歳時記を参照することで詠み手と鑑賞者との間で季語の本意本情が共有され、短い言葉の中に込められたさまざまな心情を伝えることができるのです。そして、新たに生まれたさまざまな作品や解釈を受けて、歳時記に記載される季語やその意味も更新されていきます。十七音という短い言葉の中でさまざまな心情・風景を伝えるために、季語の本意本情は大きな役割を果たします。

俳句における季語の重要性について、人工知能研究の視点から考察してみたいと思います。通常コミュニケーションとは、何か伝えたいことを何らかの手段によって他人に伝えることを指します。言葉を介したコミュニケーションでは、伝えたいことを言葉に変換して他人に伝えます。［ア］明確に区別できる有限な言葉の組み合わせで表現するという意味では、俳句はデジタルな情報であると言えます。［イ］デジタルな情報というと、漠然とコンピューターが扱う情報と理解している人が多いと思いますが、デジタルとは飛び飛びの値しかない整数のような値によって表現される情報のことを意味します。［ウ］デジタルな情報の利点は、書き間違いなどをしない限り劣化することなくその内容を伝えていくことができることですが、有限の情報しか表現できず伝えられる内容が限定されるという欠点も併せ持ちます。［エ］デジタルに対して温度や速度、電圧や電流のように連続した量を取るものをアナログと呼びます。アナログな情報はデジタルな情報と比べて連続した量をそのままの形で表せる一方で、情報を伝達するときにノイズなどの影響が原因で値がずれてしまうという特徴を持ちます。

俳句をデジタルな情報として考えたとき、俳句を詠むということは情景や心に感じたアナログな情報を、デジタル情報である十七音の言葉の組み合わせに変換している操作であると言うことができます。この十七音を通して作者の思いが他者に伝わるということは、読者が十七音を読み取って自分の頭の中に他者の感じた情景や気持ちを再現し、自分の状況に重ねていると言えるのではないでしょうか。

つまり、俳句を通したコミュニケーションが成立するためには、世界や自分に関するアナログな情報をデジタル情報に変換するエンコーダーと、デジタル情報から世界や他者に関するアナログな情報を復元するデコーダーを持つ必要があることになります。音楽の例でいうと、空気の振動からなるアナログなデータをデジタルに変換するエンコーダーによってデータを作成・保存し、デジタルなデータから最終的にスピーカーにより空気の振動に戻すデコーダーによって音楽が再現されることと同じようなことです。正確に情報を伝えるためには、①エンコーダーとデコーダーの情報変換規則ができるだけ齟齬がないことが条件となります。

また、俳句では制約された十七音という言葉しか使えないことを考えると、正確さを保ちながらもできるだけ多くの情報を伝えることも、とても重要になってきます。使う言葉一つひとつの意味が多様性をもっていることに加えて、お互いに言葉の意味の多様性が共有されていることが重要となるのです。

つまり、俳句の詠み手、鑑賞者双方が多様な言葉の意味を知っていることはもちろんのこと、双方が互いに言葉の意味を知っていることを知っていることが重要です。人工知能の分野ではこのような「全員がそのことを知っていること」、「全員がそのことを知っていることを知っていること」、さらには「全員がそのことを知っていることを知っていることを知っていること」と無限に続く命題が成り立つとき、その事実は「共有知識」であると呼びます。

俳句において、歳時記で意味が解説されている季語を用いることを条件とすることにより、お互いが季語の本意本情を理解しているという共有知識が成り立ちます。これにより、正確で効率の良いコミュニケーションを成り立たせていると解釈することができると考えられます。このような理由から、わずか十七音で豊かな世界を表現する俳句には季語が必要なのではないでしょうか。

（川村秀憲・山下倫央・横山想一郎『人工知能が俳句を詠む』による）

（注）本意本情 ＝ ここでは、ある題材が本来備えている性質、意味やあり方のこと。

1 本文中のA～Dの ―― を付けた語のうち、一つだけ他と活用形の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の［ア］～［エ］から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

> したがって、文字で表現された内容もデジタルな情報であると言えるのです。

3 ①エンコーダーとデコーダー とあるが、本文中で筆者は、俳句を通したコミュニケーションにおいて、エンコーダーとデコーダーの役割は、具体的にどのようなことであると述べているか。その内容についてまとめた次の文の［　　］に入る内容を、本文中のことばを使って**五十五字以上、七十字以内**で書きなさい。

詠み手が、［　　］こと。

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 詠み手と鑑賞者との間で季語の本意本情を共有することができるのは、歳時記に記載される季語やその意味が、新たに生まれたさまざまな作品や解釈を受けても変わることがないからである。

イ わずか十七音で豊かな世界が表現されるには、歳時記を参照し、詠み手と鑑賞者の双方が多様な言葉の意味を知りながらも、そのうちのどの意味で詠み手が言葉を用いたのかを鑑賞者が正確に理解する必要がある。

ウ 歳時記に収録された季語を用いることを条件とすることで、詠み手と鑑賞者の双方が季語の本意本情を理解しているという共有知識が成り立ち、わずか十七音の言葉で、正確で効率の良いコミュニケーションが成立する。

エ 詠み手が歳時記を参照し、季語の本意本情を理解したうえで詠んだ俳句であれば、鑑賞者がその句に詠まれた季語の本意本情を知らなかったとしても、十七音という短い言葉だけで、豊かな世界を伝えることができる。

五 合意の形成に向けての話し合いを行う際に、あなたが心がけたいと考えることはどのようなことですか。次の**条件1・2**にしたがって、あなたの考えを別の原稿用紙に書きなさい。

条件1 あなたが心がけたいと考えることはどのようなことかを示したうえで、なぜそのように考えたのかを説明すること。

条件2 **二百六十字以内**で書くこと。

受験番号	番

得点	

〈問題五を除く〉

一

(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
夜半（ヤハン）	案外（アンガイ）	巣穴（スアナ）	柱（ハシラ）	げんしゅく（厳粛）	ゆうきゅう（悠久）	へだ（隔てる）	はさ（挟まった）
/12	、/2	/2	/2	/2	/1	/1	/1	/1	配点
採点に当たっては、「常用漢字表（付）字体についての解説」および「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」をふまえ、採点基準を定めること。裏面に、「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」の「字形比較表」の一部を示している。							注意事項

二

1	2	3	4 a	4 b
ア	ア	ア	明白なる達成を刻印する	さっぱりと
イ	イ	イ		
ウ	ウ	ウ		
エ	エ	エ		

/21	/4	/6	/4	/4	/3	配点
	部分点を与える。					注意事項

三

1	2	3	4 a	4 b
といていわく	ア	ア	手本	舞台において相手の せりふを聞いた時に思い出 してせりふを言う、ようにしている。
	イ	イ		
	ウ	ウ		
	エ	エ		

/20	/6	/4	/4	/4	/2	配点
	部分点を与える。					注意事項

四

1	2	3	4
A	ア	詠み手が、情景や心に感じたことを十七音の言葉の組み合わせに変換し、読者が、それを読み取って自分の頭の中に詠み手の感じた情景や気持ちを再現すること。	ア
B	イ		イ
C	ウ		ウ
D	エ		エ

/19	/4	/8	/4	/3	配点
	部分点を与える。				注意事項

1

令和６年度

大阪府学力検査問題

（一般入学者選抜）

国　語

〔C問題〕

注　意

1　「開始」の合図があるまで開いてはいけません。

2　答えは、**解答用紙**に書きなさい。
ただし、問題**五**は**原稿用紙**に書きなさい。

・答えとして記号を選ぶ問題は、右の【解答例】にならい、すべて**解答用紙の記号**を○で囲みなさい。また、答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消しなさい。

・答えの字数が指定されている問題は、**句読点や「　」などの符号**も一字に数えなさい。

【解答例】

ア
イ
㋒
エ

解答用紙の**採点者記入欄**には、何も書いてはいけません。

3　問題は、中の用紙のＡ面に**一**・**二**、Ｂ面に**三**～**五**があります。

4　「開始」の合図で、まず、解答用紙と原稿用紙に受験番号を書きなさい。

5　「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。

A 面

国語（C問題）（一般入学者選抜）

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

『万葉集』の歌が感動をそのまま表そうとするのに対して、『古今集』の歌は感動を一ひねりして言い表そうとする。すなわち、感動を、ある理屈の枠組みにはめこんで再構成するのである。ここで、題材のほぼ似通った二集の歌を比べてみよう。

梅の花咲ける岡辺に家居ればゑしくもあらず鶯の声
（万葉・巻10・一八二〇　作者不明）

春たてば花とや見らむ白雪のかかれる枝に鶯の鳴く ――Ⓧ
（古今・春上　素性）

右の二首は、同じく早春の梅と鶯を組み合わせて詠んでいながらも、その詠みぶりは根本的に異なっている。前者の『万葉』の歌は、梅の花の咲いている岡のあたりに住んでいるので、鶯の声の聞こえることが少なくない、の意。［　①　］といってよいだろう。

これに対して後者の『古今』の歌は、春になったので鶯が雪を梅の花と見まちがえているのだろうか、白雪の降りかかっている梅の枝で鶯が鳴くのだ、の意。実際には春まだ浅く、梅の白い花が咲く以前にその枝に雪が降りかかっているが、そこに早くも鶯がやってきて鳴いている、というのが実際のところである。それを理屈っぽく一ひねりしたのが、この『古今』の歌である。この時代よく用いられる見立てや擬人法を用いて、鶯は白雪を白梅と見まちがえたのだろうか、としている。

鶯が春まだ浅いのに雪の降りかかる梅の枝で鳴いているという事実を、「……なので……なのだろうか」という理屈の枠組みのなかにあてはめて表現していることになる。事実が事実そのままとしてではなく、再構成されているのである。この歌ではそうした工夫を通して、待ちわびた春がもうそこまでやってきたという感動を表している。雪の底から春が芽生えている、というように季節の微妙な移り変わりに気づいて、それを感動的に歌いあげるのも、この時代の季節の歌の特徴の一つである。

従来、『古今集』の歌の表現について、理屈っぽいという意味で理知的といわれたり、また感動の間接的な表現とか、あるいは観念的な表現とかいわれてきた。しかし、そうであるからとて、そのような表現には感動がこもっていないということには、けっしてならない。右の「春たてば」の歌にも、②生命よみがえる季節を待ち望む気持ちがあふれている。『万葉集』と『古今集』とでは、歌における感動のしかたが異なっているにすぎない。

花の香を風のたよりにたぐへてぞ鶯さそふしるべにはやる ――Ⓨ
（春上　紀友則）

これは、梅の花の香を、風を使者としてそれに添えてやり、まだ姿を現さない鶯を誘い出す案内役にしよう、ぐらいの意。ここでも、梅花の香ぐわしさや鶯を待つ気持ちをそのまま言うのではなく、擬人法の技法によって本来無関係な人事と物象を結びつけ、人を誘うのに便りをもってする人間社会の慣習に照応させながら表現している。そして、梅と鶯の取り合わせがいかに抜きがたく重要であるか、その事柄の原因理由について理屈をもって述べているところから、あらためて自然界の道理を思うことになる。

『古今』的表現の眼目ともみられる事実の再構成は、事柄がつねに、変化の動機や由因などの必然関係によって成り立っているという認識、あるいは事実をその生起死滅の一齣として動態的、歴史的にとらえようという思考を喚起するように仕組まれている。ともかく、事柄の再構成という思考性が媒介的に作用して、生動する万物の道理、千変万化を促すところの規矩を見定めようとする。そのような思考の生み出す表現は、当然ながらきわめて観念的である。次のよく知られた歌、

ひさかたの光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ ――Ⓩ
（春下　紀友則）

も、再構成による観念的な表現という特徴をよく示していよう。「のどけき」と「静心なく」の［　③　］なひびき、そして「静心なく花の……」という擬人法的な表現があいまって、ひとり静心なく散らねばならぬ不可思議さを思わざるをえない。作者の内面にはかすかながら、静中の動、静止のなかの変化という、運命にも似た不可知の事象が発見されている趣である。不安な憂愁を正面からいうのではなく、爛漫の春を味わう悠々たる自然観照のかなたに、人間世界の深遠な理がかすかな翳りとして見つめられている。
（鈴木日出男『古代和歌の世界』による）

（注）素性＝平安時代の歌人。　紀友則＝平安時代の歌人。
規矩＝規準。

1　次のうち、本文中の［　①　］に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　似通った題材で詠まれた二首の差を端的に示している
イ　春の情景に対して感動した理由が歌われている
ウ　梅と鶯の組み合わせの良さを暗に示している
エ　春の情景の実際がそのまま歌われている

2 ②生命よみがえる季節を待ち望む気持ち とあるが、本文中の⊗で示した歌では、この気持ちを具体的にどのようにして表現しているかということについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。［　　］に入る内容を、本文中のことばを使って**七十字以上、八十字以内**で書きなさい。

⊗で示した歌では、［　　］ことにより再構成し、生命よみがえる季節を待ち望む気持ちを表現している。

3 次のうち、本文中の［③］に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 重複的　イ 対照的　ウ 比喩的　エ 超越的

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 本文中のⓎで示した歌に自然界の道理を思うことになるのは、梅の花は鶯を誘い出すために香ぐわしくなるという理屈によって、梅と鶯の取り合わせがいかに重要であるかということが感じられるためである。

イ 本文中のⓏで示した歌は、その表現がきわめて観念的であり、爛漫の春を味わう悠々たる自然観照のかなたに、不安な憂愁だけではなく、人間世界の深遠な理がかすかな翳りとして見つめられている。

ウ 理知的といわれたり、感動の間接的な表現、あるいは観念的な表現と評されたりする『古今集』の歌の表現も、感動がこもっていないのではなく、歌における感動のしかたが『万葉集』とは異なっているにすぎない。

エ 『古今』的表現の眼目でもある事実の再構成は、事柄がつねに、変化の動機や由因などの必然関係によって成り立つという認識や、事実を動態的、歴史的にとらえようという思考から喚起されることによってなされる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

吾が師の歌に、

こころあてに見し白雲はふもとにて思はぬ空にはるる不二のね

此のうた、①さまでの秀逸ともおもはざりしに、いにし文化四年、おのれ伊豆の出で湯あみがてら、熊坂の里なる竹村茂雄がもとへと心ざして旅たてる頃、熱海の出で湯をいでて、弦巻山の頂へかかりしに、浮き雲西の空にたちかさなりたりしかば、ともなへる人にむかひて、不二はいづくの雲のあなたにかあたりて見ゆると問ひしに、はるかにゆびさして、あしこの雲のうちにこそといふほど、いつしか浮き雲はれのきけるに、其の指さしをしへたる雲よりははるかに高く、空に聳えてふりあふぎ見るばかりなりしかば、さて其の時ぞ、②師の歌をおもひ出でてめで聞こえたりき。

（注）不二＝富士。富士山。　竹村茂雄＝江戸時代の国学者。
　　賞賛し申し上げた

1 ①さまでの秀逸ともおもはざりしに とあるが、次のうち、このことばの本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア それほど秀逸であるとも思わなかったが
イ その歌ほど秀逸なものはないとも思ったが
ウ それほど秀逸な歌ができるとは思わなかったが
エ それまでの歌と比べると秀逸であるとは思ったが

2 次のうち、本文中の ―― を付けたA～Cの動作を行っている人物として最も適しているものはそれぞれどれか。一つずつ選び、それぞれ記号を○で囲みなさい。なお、必要があれば同じ記号を何度選んでもよい。

ア 師　イ 竹村茂雄　ウ ともなへる人　エ 筆者

3 ②師の歌をおもひ出でてめで聞こえたりき とあるが、本文において、筆者はどのようなことから、師の歌を思い出し賞賛したのか。その内容についてまとめた次の文の［　　］に入る内容を、本文の趣旨から考えて、現代のことばで**五字以上、十五字以内**で書きなさい。

師の歌に詠まれた内容と［　　］こと。

三 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)〜(3)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。また、(4)〜(6)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

(1) 今年の夏は殊に暑い。
(2) 疑問を呈する。
(3) 美術の授業で彫塑の基本を学ぶ。
(4) 木材のソりを直す。
(5) ラジオが時をホウじる。
(6) 提案のコッシを説明する。

2 「水濁れば則ち尾を掉ふの魚無し。」の読み方になるように、次の文に返り点をつけなさい。

水濁則無掉尾之魚。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

歴史には、現在とはA<u>っきり断ちきられる</u>ことによってB<u>かえって</u>格別な意味をもってくるところがある。現在の私たちにとって特別な様相をもったものとしてあらわれてくるところがある。①、歴史が過去の出来事を現在と断ちきれたかたちで扱い描き出すことは、昔からよく人々の歴史への関心を有害でこそあれ益のないものとする根拠にもされた。すなわち、歴史は私たちの関心を徒に過去に向かわせることで自分たちの生きる時代を忘れさせ、私たちを現実から逃避させるものではなかろうか。描き出され話にまとめられた歴史は、事実そのものではなくて事実の一部分にすぎず、しかも、事実のままではなく空想によって着色され、歪められている。だから、私たちは歴史からなんらの知識をも得ることができないのではなかろうか、と。

もしも過去を現在とまったく無関係なものと考えれば、過去に関心を向けることは現実からの逃避になるだろう。また、古典的な史書以来のC<u>いわゆる</u>歴史叙述は、科学的な意味での厳密な知識を私たちに与えるものでもないだろう。そして、もしも過去の出来事についてそのような厳密な知識を得ようとするならば、科学に範をとった実証主義的な方法により確実な史料にもとづいて過去の事実のあれこれを突きとめ、それらを時間系列のうちに一回性をもった出来事として叙述することが要求されるだろう。近代実証史学が行ったのはD<u>まさに</u>このことであり、そこでは、歴史的な事実や出来事はほとんど科学の対象である物体と同じように明確に、しかしまったく対象化されておよそイメージ的全体性を失ったものとしてとらえたのである。

そのような過去の事実や出来事の扱い方は②<u>歴史を科学的に学問化することにはなったが</u>、私たちが惹かれるのはそういう歴史ではない。もっと自立したイメージ的な全体性をそなえ、私たちとの生きたつながりをもった歴史である。また、出来事としての偶然性を孕んだ歴史である。そうはいっても、もちろん歴史は、ある程度まで史実にもとづきながらも想像力によって華麗な物語をつくり上げる歴史小説とは区別される。歴史上の事実や出来事をとらえる上でも、それらをことばで叙述し描き出す上でも、想像力が働かされなければならないことはいうまでもないが、歴史の場合には、どこまでも史実そのものに語らせること、史実そのものを多義性をそなえたかたちで顕す手助けをすること、にとどまるわけだ。

③、歴史は、一度現在と断ちきられることで、なぜ私たちにとって特別な様相をもったものになるのだろうか。まず、私たちが一つの時代、一つの社会のなかに生きているということは、ただ物理的な意味での時間的・空間的にその時間、その場所に生きているということではない。そうではなくて、多かれ少なかれ、私たち一人一人が一つの時代のなかにある社会を、つまりはそのなかでの自他の経験を内面化し、それを自分の問題として生きていくということである。もとより、一人一人がそれぞれに自分の問題とするところは同じではない。しかし互いに通じ合い共通したところをもつのは、このような自他の経験の内面化のためだろう。私たちにおいて経験は、さまざまの意識的・無意識的な制度を仲立ちにして行われ、しかもつぎつぎに新しい事実や出来事を生じさせていく。そして、新しい経験と新しい事実や出来事は私たちの一人一人にいっそう多くの、いっそう込み入った問題を課するだろう。

そうしたなかで、私たちは、自分たちの生きている時代や社会をよりよく認識するために、また込み入った問題、解決しにくい問題に対処して生きていくためにも、自分たちの時代、自分たちの社会をできるだけ総体的に、また、できるだけ多角的に映し出す鏡を求めるのだといえよう。歴史とは、私たち人間にとって、まずなによりもそういう鏡ではないだろうか。そして歴史は、このような鏡であるためには、それ自身が多かれ少なかれ自立したイメージ的な全体性をもったものでなければならないし、また、現在とはつながらずにはっきり断ちきられた過去でなければならない。鏡は世界を映し出すものであり、イメージは鏡に宿るものである。鏡は相接したものを映し出すのではなくて、へだたったもの、はっきり向かい合ったものを映し出す。過去の事実や出来事は歴史として現代と断ちきられへだたりながら、ことばによって多義性を蔵した自立的なイメージ的全体となることができ、④その結果、過去の歴史はさまざまな角度から現代と私たちの生き方のなんたるかを映し出す鏡になるのである。

（中村雄二郎『哲学の現在』による）

1 本文中のA～Dの ―― を付けた語のうち、一つだけ他と品詞の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 次のうち、本文中の [①]、[③] に入れることばの組み合わせとして最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア ① たしかに ③ それにより
イ ① たしかに ③ それにしても
ウ ① もしくは ③ それにより
エ ① もしくは ③ それにしても

3 ②歴史を科学的に学問化することにはなった とあるが、本文中で筆者は、過去の事実や出来事をどのようなものとして扱うことで、歴史を科学的に学問化することになったと述べているか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 科学的な意味での厳密な知識を得ることにより、過去の事実や出来事を、明確に対象化され、イメージ的全体性を失ったものとして扱うこと。
イ 明確に対象化され、イメージ的全体性を失ったものととらえることによって、過去の事実や出来事を、現在と無関係なものとして扱うこと。
ウ 過去の事実や出来事を、科学の対象である物体と同じように、明確に対象化され、イメージ的全体性を失ったものとして扱うこと。
エ 過去の事実や出来事を、一回性をもった出来事としてではなく、私たちとの生きたつながりをもったものとして扱うこと。

4 ④その結果、過去の歴史はさまざまな角度から現代と私たちの生き方のなんたるかを映し出す鏡になる とあるが、本文中で筆者は、これは歴史がどのようなものになるということだと説明しているか。その内容についてまとめた次の文の [　　] に入る内容を、本文中のことばを使って**五十字以上、六十字以内**で書きなさい。

歴史が [　　] ものになるということ。

5 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 歴史がそこから知識を得ることができないものだとされてしまうのは、描き出され話にまとめられた歴史が、空想によって着色され、歪められているからではなく、事実の一部分にすぎないからである。
イ 歴史小説は、史実にもとづきながらも、想像力によって物語をつくり上げていくものだが、歴史は、想像力は用いず、史実そのものに語らせ、史実そのものを多義性をそなえたかたちで顕そうとするものである。
ウ 私たちが、互いに通じ合う部分を持つことができるのは、一つの時代、一つの社会のなかで、自他の経験を内面化し、それを自分たちに共通した問題として生きていこうとするからである。
エ 経験は、さまざまな制度を仲立ちにして行われ、新しい事実や出来事を生じさせるものであり、私たち一人一人は、新しい経験と新しい事実や出来事から、より多くの込み入った問題を課されることとなる。

五 次の**資料A**、**資料B**を読んで、「読書」とはどのようなものかということについてのあなたの考えを、別の原稿用紙に**三百字以内**で書きなさい。ただし、あとの**条件1**・**2**にしたがって書くこと。

資料A

良書を初めて読むときには新しい友を得たようである。

オリバー・ゴールドスミス

資料B

本は私たちの中にある凍りついた海を割る斧(おの)でなければならない。

フランツ・カフカ

(注) オリバー・ゴールドスミス ＝ イギリスの作家。
フランツ・カフカ ＝ チェコの作家。

条件1 資料A、資料Bの少なくとも一つについてふれること。
条件2 資料からどのようなことを考えたのかを明らかにして書くこと。
※ 二つの資料をそれぞれA、Bと表してもよい。

令和六年度大阪府学力検査問題　国語採点資料〔C問題〕

受験番号	番

得点	

（問題五を除く）

一

問	解答	配点	注意事項
1	ア　イ　ウ　㊁（エ）	4	
2	⊗で示した歌では、鶯が春まだ浅いのに雪の降りかかる梅の枝で鳴いているという事実を、春になったので鶯が雪を梅の花と見まちがえているのだろうかという理屈の枠組みのなかにあてはめることにより再構成し、生命よみがえる季節を待ち望む気持ちを表現している。	8	部分点を与える。
3	ア　（イ）　ウ　エ	4	
4	ア　イ　（ウ）　エ	5	
計		21	

二

問	解答	配点	注意事項
1	（ア）　イ　ウ　エ	4	
2	A　ア　イ　ウ　（エ） B　ア　イ　（ウ）　エ C　ア　イ　（ウ）　エ	4	完答とし、三つとも正しい場合のみ点を与える。
3	師の歌に詠まれた内容と同じような体験をしたこと。	6	部分点を与える。
計		14	

三

問	解答	配点
1 (1)	こと（殊に）	1
1 (2)	てい（呈する）	1
1 (3)	ちょうそ（彫塑）	1
1 (4)	反り	2
1 (5)	報じる	2
1 (6)	骨子	2
2	水濁則無掉尾之魚。	3
計		12

注意事項：採点に当たっては、「常用漢字表(付)字体についての解説」および「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」をふまえ、採点基準を定めること。裏面に、「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」の一部を示している。

四

問	解答	配点	注意事項
1	A　B　（C）　D	2	
2	ア　（イ）　ウ　エ	4	
3	ア　イ　（ウ）　エ	4	
4	歴史が自立したイメージ的な全体性をもち、現在と断ち切られたものとなり、自分たちの時代や社会を総体的、多角的に映し出すものになるということ。	8	部分点を与える。
5	ア　イ　ウ　（エ）	5	
計		23	